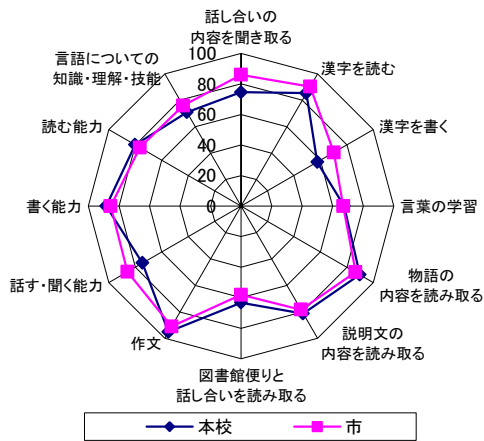


宇都宮市立上河内東小学校 第6学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内容を聞き取る	74.5	85.9
	漢字を読む	85.4	90.4
	漢字を書く	57.6	70.1
	言葉の学習	67.4	66.9
	物語の内容を読み取る	89.8	86.5
	説明文の内容を読み取る	81.3	78.4
	図書館便りと話し合いを読み取る	63.2	58.1
	作文	95.1	91.0
観点別	話す・聞く能力	74.5	85.9
	書く能力	88.3	85.4
	読む能力	80.1	76.6
	言語についての知識・理解・技能	71.0	76.0



★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内容を聞き取る	・平均正答率は、市の平均よりも11ポイント程度低い。特に、話し手の話し方の工夫を考えながら、話の内容を聞くことの正答率が55.6%と、大きく落ち込んでいる。発表者二人の話し方の工夫の共通点について、正しく内容を聞きとることができていない。	・話す・聞くの学習の際には、話し方の学習をすることはもちろんだが、話し手の話の内容を注意深く聞いたり、話の特徴や工夫点について意識しながら聞いたりすることを重点的に指導する。その際、メモを取りながら聞くよう指示をしたり、聞いた後で内容や工夫点の確認を行ったりするようにする。
漢字	・平均正答率は、市の平均よりも低く、特に書きの正答率が大きく下回っている。読みに関しては、全4問中、3問については95%以上の正答率であるが、「快い」の正答率が50%となっている。書きに関しては、「判断」「綿」の正答率が50%に達していない。正答率の高い児童と低い児童の差が大きく、漢字の得意な児童と苦手な児童の二極化が進んでいる。	・普段の漢字の小テストや長期休み明けの確認テスト、漢字検定などでは、非常に高い正答率を示すが、定着が図られていないことが問題である。漢字は活用することにより定着していくので、日常の学習や連絡帳、感想文や作文等、さまざまな場面で習った漢字を正確に書く場を多くもつように意識して声をかけていく。
言葉の学習	・平均正答率は、市の平均をやや上回っている。敬語の使い方についての正答率が、市の平均を下回っている。	・敬語については、例文を示して、相手を直接高める尊敬語、自分や身内を下げることで相手を高める謙譲語についての理解を図り、実際の場面でも活用していけるよう促しながら、場面に応じて指導をしていく。
物語の内容を読み取る	・平均正答率は、全設問について、86%を超えており、市の平均を上回っている。	・これまでの物語の読み取りの学習や音読、日々の読書活動などで、読む力が付いている。今後も継続して指導をしていく。
説明文の内容を読み取る	・平均正答率は、市の平均を3ポイントほど上回っている。文章の内容に照らして、他の例に当てはめて考えることができるかどうかの設問の正答率が、市の平均よりは6ポイントほど高いが、63.9%と低くなっている。	・説明文の読み取りの力は、おおむね付いていると言えるが、誤答率も20%ほどあるので、事実の説明を的確に押さえた上で、日常の事象に当てはめて考えられるような応用力を養うために、例示したり児童に挙げさせたりする活動を取り入れていく。
図書館便りと話し合いを読み取る	・平均正答率は、市の平均を5ポイントほど上回っている。資料を正しく読み取り、適切にまとめる設問の正答率が、市の平均よりは4ポイントほど高いが、45.8%と低くなっている。	・資料の内容を簡潔にまとめて記述する、というのは、多くの児童にとっては難しいことであると思われる。文章の内容の要旨をまとめる学習の際には、押さえるべき重要な部分などをきちんと理解させるようにする。
作文	・平均正答率は、全設問について、88%を超えており、市の平均を4ポイントほど上回っている。	・字数や段落の構成、内容についての指定などを守り、よく書けている。今後も作文指導について、継続していく。